

同時発表: NTT 研究所、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会

令和3年8月19日  
政策統括官付

## パラリンピック競技会場周辺のバリアフリー支援アプリ提供開始！

～バリアフリールート案内 Web アプリ「Japan Walk Guide」の配信が開始されます～

国土交通省ではこれまで、バリアフリー情報のオープンデータ化や標準化を推進してきましたが、この度、当省仕様に準拠し、NTT 研究所が開発した新たな Web アプリ「Japan Walk Guide」がオリンピック・パラリンピック等経済界協議会から公開されました。

当省や経済界協議会がこれまで収集した競技会場周辺のバリアフリーデータが広く提供されることで、車いす使用者や高齢者を含むあらゆる人々がストレスなく、安心して会場周辺を訪れることが可能になります。

※当省のプロジェクトの詳細は別添参照

- 本アプリは、東京2020パラリンピック開催期間中に  
ご利用頂けます。(アプリ公開期間:2021年9月5日まで )  
アプリアクセス URL: <https://transit.2020.ntt/> (無料)



- 国土交通省ではユニバーサル社会の構築に向け、障害者(車いす使用者等)や高齢者をはじめ誰もがストレス無く移動できる環境を実現するため、ICTを活用した歩行者移動支援サービスの普及展開を推進しています。今後も官民連携の元、バリアフリー情報のオープンデータ化・活用の取組みを推進します。



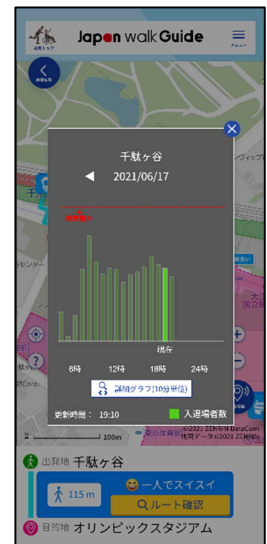
全体経路検索



ルート案内



正誤登録



混雑情報

### 「Japan Walk Guide」アプリ 利用画面

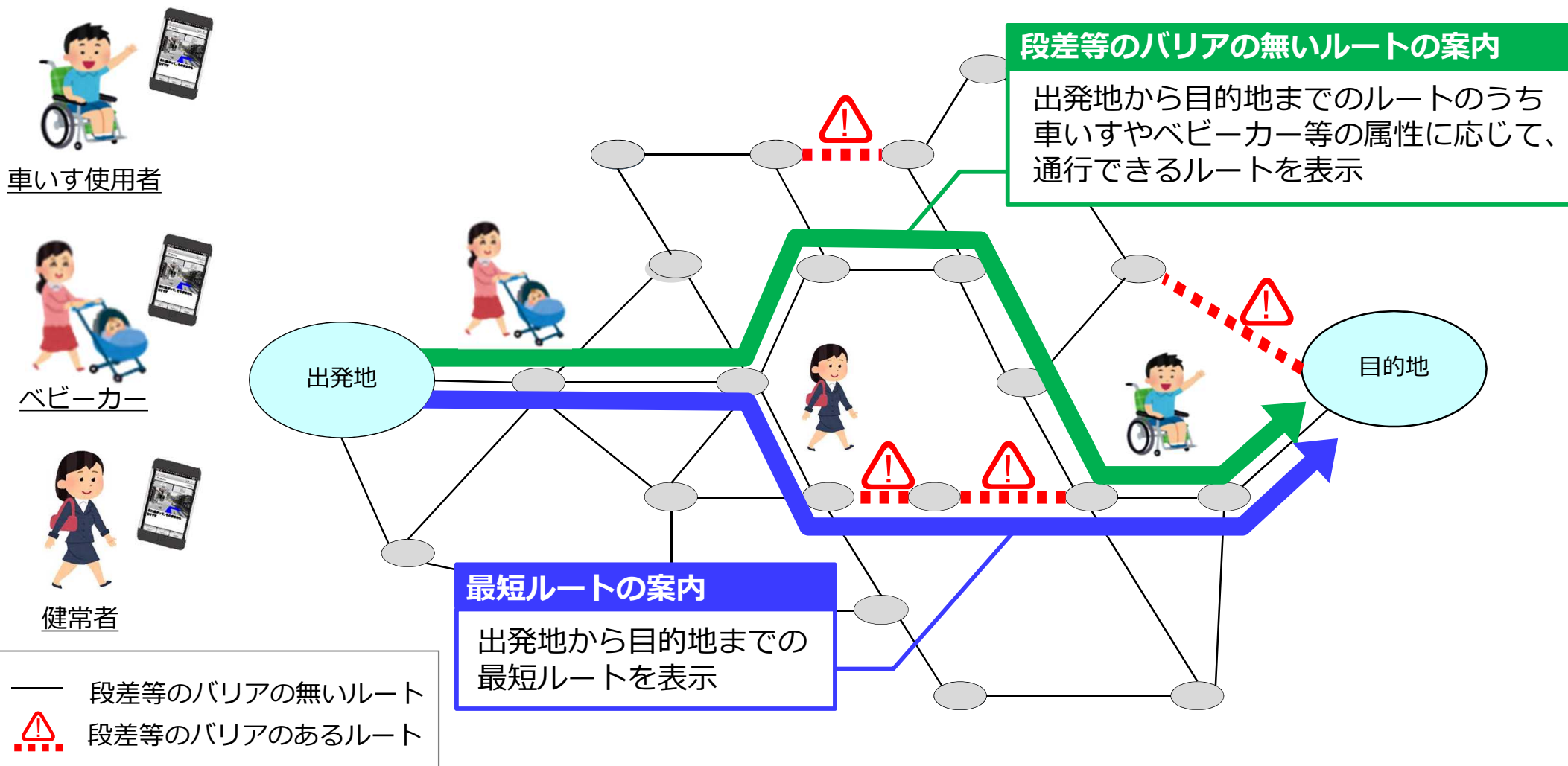
<問合せ先>

国土交通省 政策統括官付 上田、小松

TEL: (代表)03-5253-8111(内線 53103, 53115) / (直通)03-5253-8794 FAX: 03-5253-1675

# バリアフリー・ナビプロジェクト（サービスのイメージ）

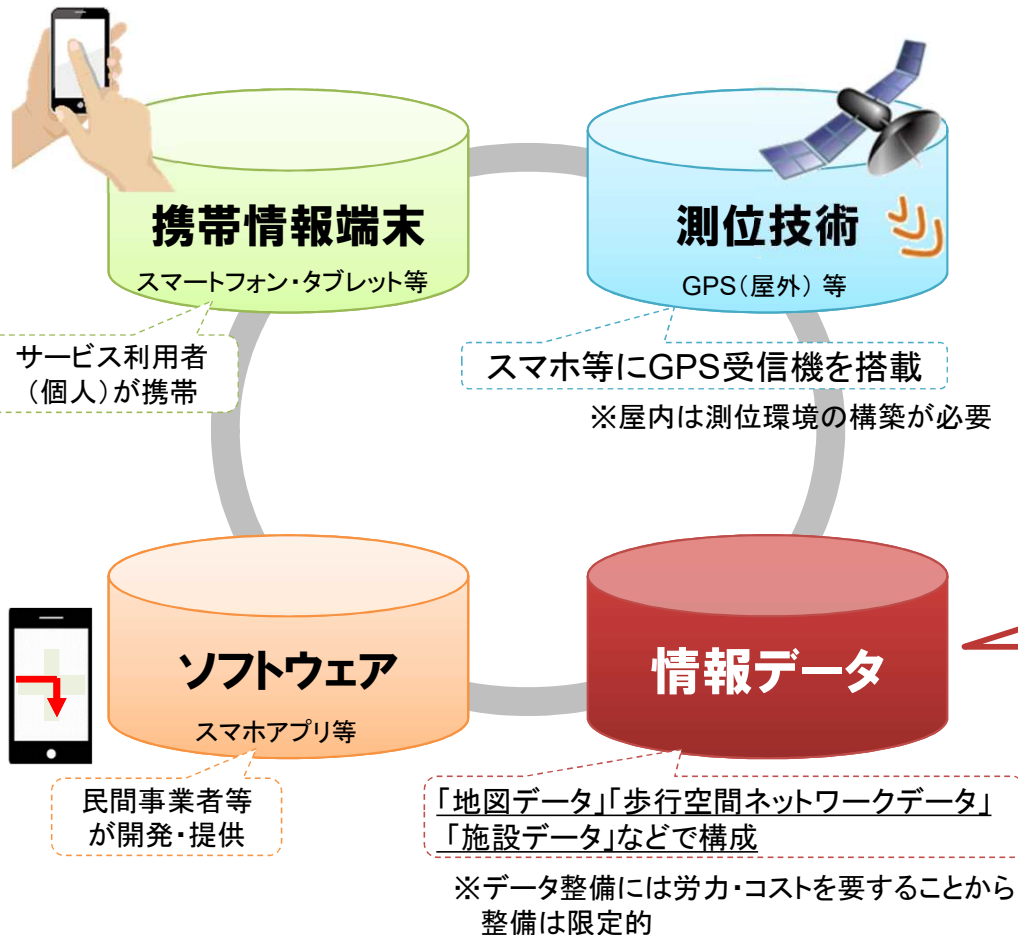
- ユニバーサル社会の構築に向け、障害者や高齢者を含むあらゆる人々が円滑に移動できる環境を実現するため、ICTを活用した歩行者移動支援サービスの普及に向けた取組を推進
- 個人の身体状況やニーズに応じて移動を支援する様々な情報をスマートフォンアプリ等を通じて民間事業者により提供される環境を目指す



# サービスの提供に必要な4要素

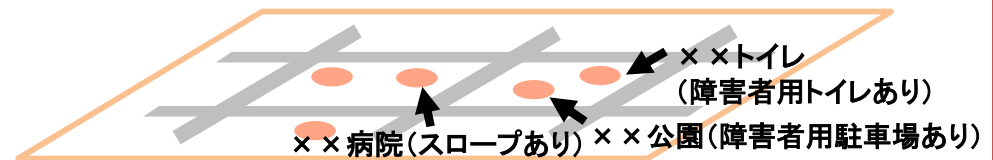
- ナビゲーションサービスの提供には、「携帯情報端末」、「測位技術」、「情報データ」、「ソフトウェア」の4つの要素が必要
- 現在、バリアフリー・ナビを実現するためのバリアフリーに関する「情報データ」の整備は限定的

## サービスの提供に必要な4つの要素



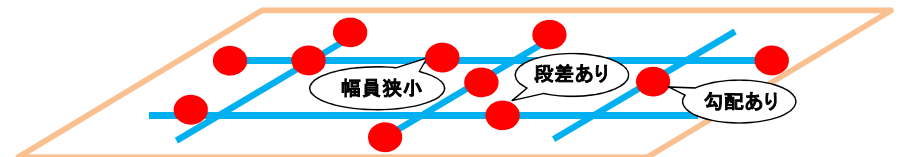
## 情報データ

**施設データ**(官公庁の建物・公園等の公共施設、鉄道駅等のバリアフリー情報のデータ)



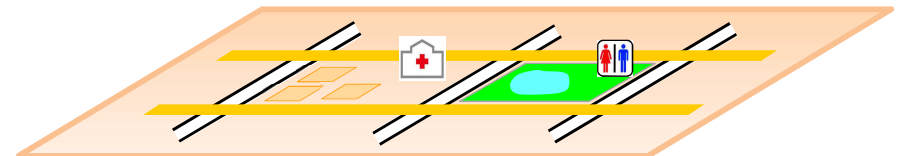
例) 建築物におけるトイレ等の設備のデータ(施設データ)  
→ どの建物にどのようなバリアフリー設備があるか?をデータ化

**歩行空間ネットワークデータ**(歩道における段差、幅員、勾配等のデータ)



例) 歩道における段差等のデータ(歩行空間ネットワークデータ)  
→ どこにどのようなバリアがあるか?をデータ化

**地図データ**(国土地理院地図等の電子地図)



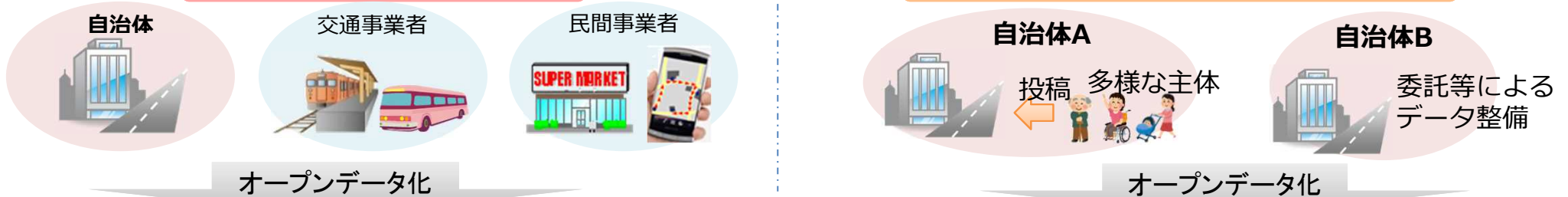
# オープンデータ化によるサービス実現のイメージ

- 様々なバリアフリーに関するデータが「オープンデータ化」されることにより、民間事業者等が個人のニーズに応じた多様なサービスを開発・提供することのできる環境を実現

## バリアフリーに関するデータ等の「情報データ」をオープンデータ化

各主体が保有する既存データ

バリアフリーに関するデータ(新たに整備)



## オープンデータサイト



## 民間事業者等が「情報データ」を活用して、多様なサービスを開発・提供



民間事業者等による多様なサービスの提供

- 「歩行空間ネットワークデータ等」をはじめとして様々なデータがオープン化されることにより、民間事業者等が自由にデータを入手し、個人の身体属性やニーズに応じた多様なサービス(スマホアプリ等)を開発・提供することが可能。
- 多様なサービスの創出は、行政の高度化・効率化に大いに貢献